

# 白山のエゾスグリ

橋 本 光 政\*

著者は、近年、白山の亜高山帯から高山帯にかけて見られる灌木林の中に、よく観察してみると、わずかにエゾスグリ *Ribes latifolium* JANCZ. が混生していることを発見し、1970年石川県発行『白山の自然』に「白山の新植物と初発見の植物」として報告した。その後も、その生態の観察と京都大学理学部の標本を調べることができたので簡単に報告する。

白山の灌木帯には、同属のコマガタケスグリ *Ribes japonicum* MAXIM. はごくふつうに見られ、よく知られてきた。エゾスグリは樹高も樹形も、また葉の大きさや形もほぼコマガタケスグリに類似しているため、見落されてきたと思われる。ところで、その明らかな区別点を表にしてみると第1表のようになる。

第1表 エゾスグリとコマガタケスグリの区別点

	樹 高	樹の性質	枝のようす	葉	葉の腺点	花序の長さ	花と形と色	果 実
エゾスグリ <i>Ribes latifolium</i> JANCZ.	1.0~2.0m	直立性だが匍匐した枝も見られる。	細くて稜があり、角ばっている。1~2年目の枝は樹皮がはく離する。	長さ幅とも小形(5~10cm)で、葉質も優しい。葉柄も短い。	なし	5~8cmで短かく花数も少ない。	短かい鐘状で帯紅紫色。	結実する。数は少ない、ほとんど無毛で、成熟するまでは、たてじまがある。紅熟する。
コマガタケスグリ <i>Ribes japonicum</i> MAXIM.	1.0~2.5m やや大きい	直立性	太くて強健。樹皮ははく離しない。	長さ幅ともに7~15cmでやや厚く、葉柄も長い。	黄褐色の腺点が多くある。	10~20cmで長く、花数も多い。	幅状に平開し、黄緑色。	ほとんどが結実し、数も多い。黒褐色に熟する。

また、近縁のトガスグリは、子房・果実に長い腺毛があり明らかに区別できる。白山には産しないと思われる。

エゾスグリの分布は北海道から南千島・樺太・北鮮・満洲・ウスリー、そして北米に知られていたが、1965年小水内長太郎氏によって岩手県の<sup>①</sup>六角牛山(1924m)の海拔700m付近で、また1968年清水大典氏によって米沢市万世栗子の<sup>②</sup>三つ富士の900m付近で発見されたことが報告されている。(山形県下で見出されたエゾスグリとその仲間; 清水大典; 植物と自然 Vol. 2 No. 12 p. 1968)

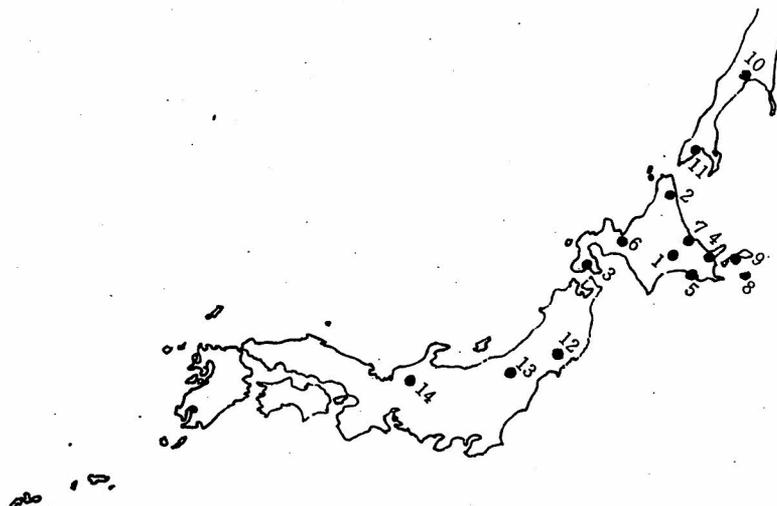
著者の<sup>③</sup>白山での採集は1965年8月と1969年7月および1972年8月に、三の峰付近(海拔1700~2000m)、1966年7月と1967年7月および1968年8月に観光新道の海拔1500~1800mで採集している。金沢大学理学部標本庫に入れた著者の標本と京都大学理学部標本庫に保存されている標本の採集地、採集年月日、採集者を記録すると次のようになる。

〔北海道〕<sup>④</sup>北見国津別町字上里 May. 30, 1964 Z. KAWASHIRO; <sup>⑤</sup>北見国斜内 Jun. 23, 1934 J. ONI; <sup>⑥</sup>渡島 函館山 May. 10, 1940 Y. KUROSAWA; <sup>⑦</sup>根室ラウス岳 Ca 500m Sep. 4, 1959 M. HOTTA; <sup>⑧</sup>釧路 仙鳳趾 Jul. 2, 1942 K. MIYABE; <sup>⑨</sup>札幌 Aug. 1, 1925 No. 608; <sup>⑩</sup>網走 能取

\* 兵庫県立姫路東高等学校

Jul. 19, 1931 J. OHI ; ⑩色丹島 マタコタン *Kuri LENSIS* ; ⑨国後, 古釜布 Jul. 26, 1930 Y. MATSUMURA [樺太] 泊岸 Aug. 23, 1930 G. KOIZUMI ; ⑧敷香支庁散江郡散頃 1936年 M. TATEWAKI & Y. TAKAHASHI ; ⑦大泊 Aug. 29, 1930 S. KITAMURA, Korsakof (大泊) Julio. 1908 U. FAURIE ; 敷香郡幌登山 Aug. 1932 S. SUGAHARA, Sep. 3, 1939 Z. TASHIRO ; 安別 Aug. 20, 1940 G. KOIZUMI 以上は京都大学の標本, 金沢大学には〔石川県〕白山・観光新道(殿ヶ池~別当出合) 海拔1500~1800 m Jul. 12. 1966 M. HASHIMOTO の標本がある。

終りに当って, 以上のようにエゾスグリは北海道から東北, 白山と明らかな隔離分布をし, 白山はもちろん南限地である。白山では小さな群落をなして生育しているところもあるが分布はごく限られている。登山シーズンの最盛期にはほぼ果実の頃なのであまり気付かれないうであろうが, 6月から7月の初めにかけては帯紅色の花をつけるのでよく目立つ。生きた貴重な資料として永久に残したいものである。



*Ribes latifolium* JANCZ エゾスグリの分布



写真1 花序をつけたエゾスグリの標本。花は帯紅紫色で美しい。1966年7月12日採集，金沢大学理学部標本室に保存されている。

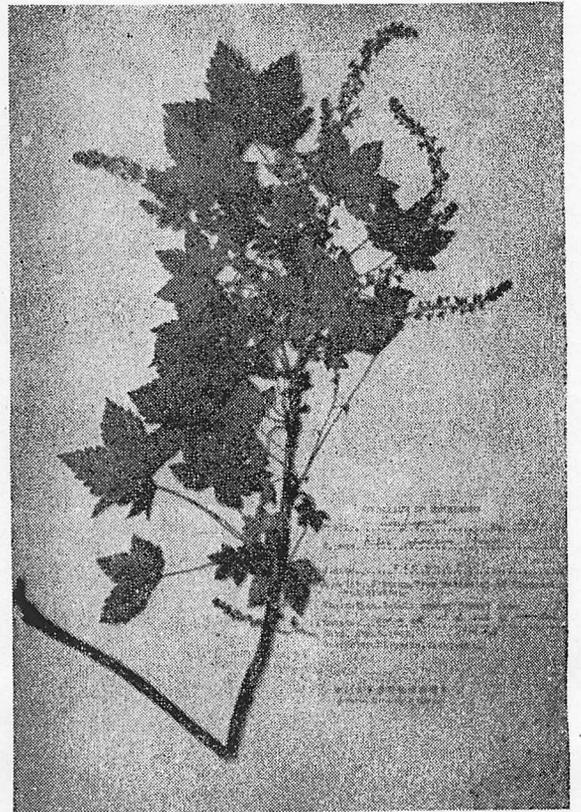


写真2 花序をつけたコマガタケスグリの標本。花は黄緑色で数が多い。1965年6月6日採集。金沢大学理学部標本庫に保存されている。

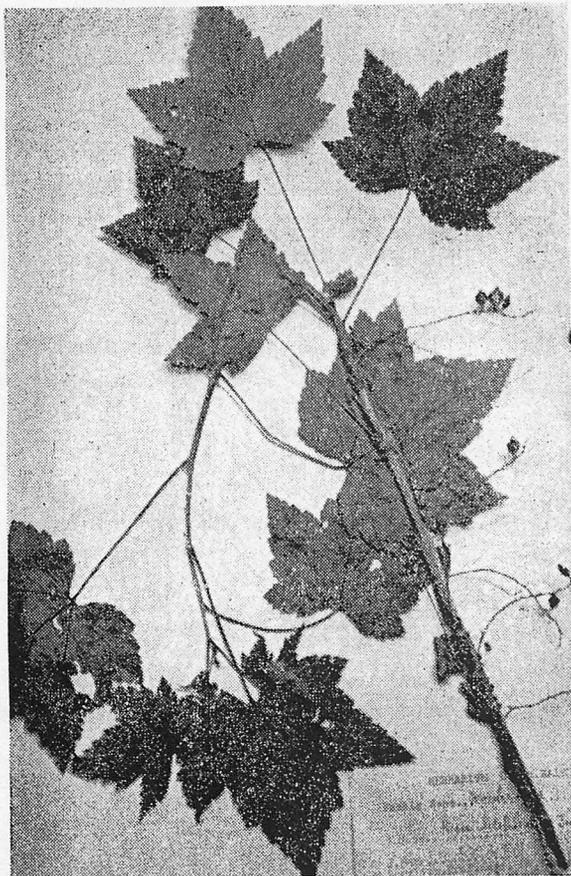


写真3 果実をつけたエゾスグリの標本。果実の数は少ない。1967年7月30日採集のもの。

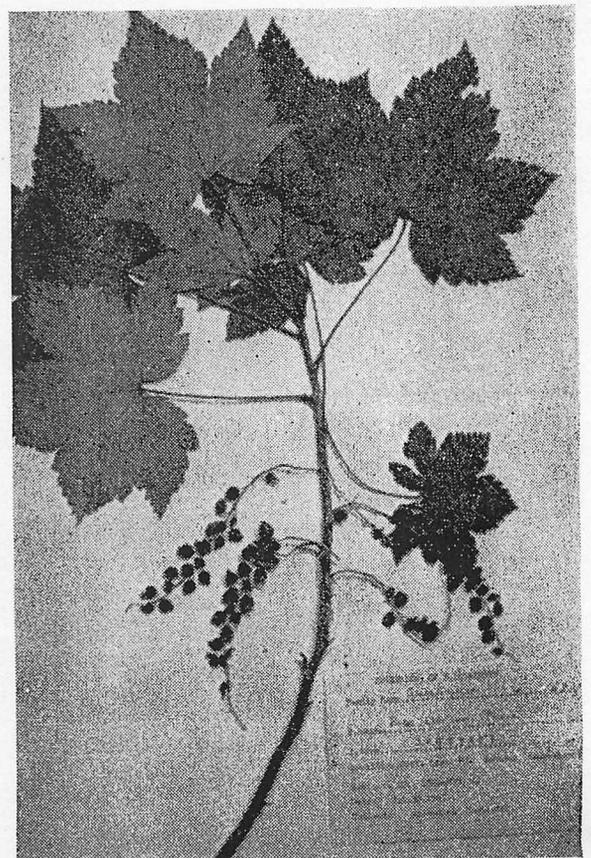


写真4 果実をつけたコマガタケスグリの標本。果実の数が多。1967年7月30日採集のもの。



写真5 観光新道の海拔1800~1500m付近で撮影したエゾスグリの果実。枝の樹皮がはく離している。

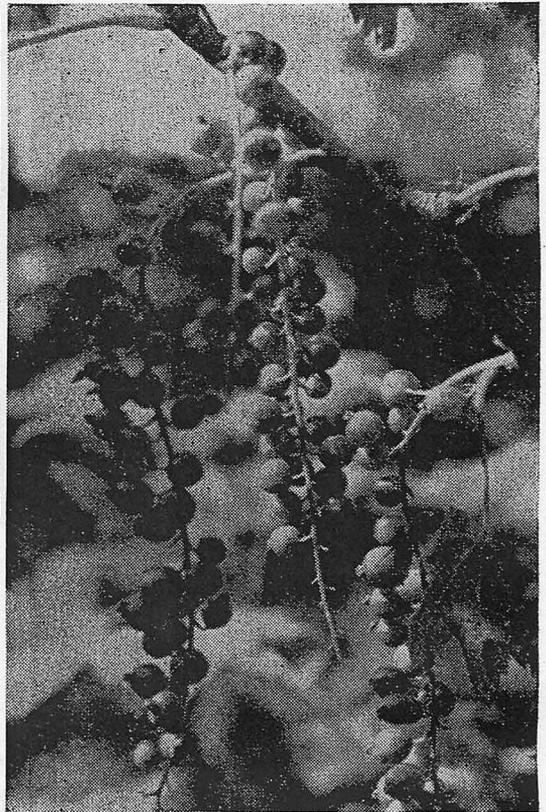
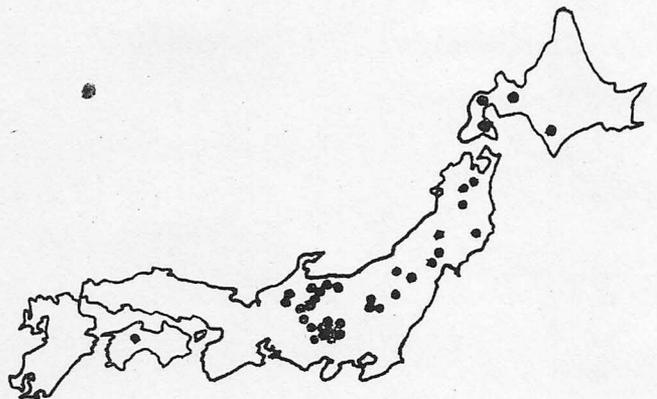


写真6 多くの果実をたれ下げたコマガタケスグリ。枝は円形では樹皮ははく離しない。



写真7 まだ、成熟していないエゾスグリの果実。たてに入った模様がよくわかる。



*Ribes Japonicum* MAXIM.

コマガタケスグリの分布図

奥山春季「高山植物図譜」より引用。  
四国の分布は石槌山で、東京大学の標本庫に1890年8月10日渡辺協氏採集の標本が保存されている。